

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3670200470 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 緑樹会 | | |
| 事業所名 | グループホームおおつ | | |
| 所在地 | 徳島県鳴門市大津町大代字戎野472番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年12月5日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年2月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族や地域住民、老人会、民生委員に運営推進会議に参加して下さっています。また、地域の小学校やボランティアの方々とは定期的に交流があり、苑にて、手品、踊り、歌などを披露して下さっています。地域の老人会の皆様とは特に交流の機会があり、苑の地域交流ホームにて、囲碁ボールや季節に沿ったテーマの折り紙を利用者様に教えて下さっています。又、事業所内に保育園があり、ハロウィンパーティーや七夕などの行事の際には子供達と交流があり賑やかで、楽しいひとときを過ごしています。食事会やお茶会、買い物会では地域の店を積極的に利用し、交流の場として活用しています。職員研修を積極的に行い、毎月、スキルアップ研修を開催しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同一法人の運営する特別養護老人ホームと併設しており、建物の3階に位置している。幹線道路から入り込んだ、自然豊かな閑静な立地環境にある。併設の事業所や地域のボランティアとの交流を盛んに行っている。事業所では、利用者一人ひとりが生活の場面で様々な役割を担いつつ、明るい雰囲気なかで笑顔の溢れる穏やかな生活を送ることができるよう支援している。事業所は、法人の理念に加えて、介護理念や業務心得、事業所の目標等も掲げている。職員は地域密着型サービスの意義を共有し、利用者の尊厳や権利を尊重して寄り沿って支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|---|
| | | | 花 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員業務心得、理念、施設の目標を毎日の朝の申し送り時に唱和し、職員に周知徹底している。利用者、家族には入居の契約、説明の際に契約書等にて十分な説明を行っている。 | 事業所では、朝礼時に全職員で法人理念と事業所理念等を唱和して共有化を図っている。また、介護理念については、全職員で話しあうなどして見直しを行っている。職員は、理念を日々の実践の原点として捉えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣地域の小学校、老人会やボランティアとの関わりを積極的に行っている。苑の行事への参加は元より、地元の老人会とは折り紙クラブや囲碁ボールの慰問を通じて触れ合える機会を作っている。 | 事業所では、年1回の地域の自治会が行う清掃活動へ参加したり、小学校の運動会に参加したりして地域の一員として交流を行っている。大学の介護実習生の受け入れも積極的に行っている。事業所の防災訓練時に地域住民の来訪があり、双方向に交流するようにしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実践や研修で培った認知症の支援の方法や、知識を、広報活動を通じて発信している。また、地域の方々の高齢者やその家族に困ったことがないかを問いかけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者や家族、民生委員、市職員、老人会に参加して頂き、事業実施状況や行事報告等を行っている。参加者からの意見や提案を真摯に受け取り、サービスの向上に繋げている。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、地域住民の代表、市担当者等の出席がある。事業所から、日頃の取り組みを報告し、出席者からは助言や意見を出してもらっている。出席者から出された意見や要望は、職員会議の際に話しあい、運営面に反映するようにしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護相談員の報告会に同席してもらったり、事業所の行事、運営推進会議への参加を呼びかけている。月次報告の際には、現状報告を行い、ボランティアについても相談・報告を行っている。 | 職員は市担当窓口を直接訪問し、日々の状況を報告したり、対応の困難なことについて相談したりして助言を得ている。ボランティアの受け入れに関する相談や協力の依頼を行っている。事業所では、介護相談員の受け入れを実施しており、相互に意見交換を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の抱える身体・精神的な病気を理解できるよう努めている。現在、身体拘束の対象となる方はいない。法人内で開催している研修会に全職員が参加している。 | 年1回、管理者を含む全職員で、虐待に関する自己点検シートに基づくチェックを行っている。外部の研修にも参加しており、身体拘束について理解を深める機会を設けている。身体拘束による本人へのリスクについて家族と話し合っている。なお、事業所は建物の3階に位置していることなどから、玄関となるエレベーターのドアにナンバーロックを設置するとともに、事務所内にカメラを設置するなどして日常的に利用している。 | 事業所では、安全確保の理由から玄関となるエレベーターにナンバーロックを設置している。今後は、利用者の安全面に配慮しつつ、本人が拘束感を抱くこと無く暮らすための支援のあり方についても再度検討されたい。また、利用者からは見えにくい場所にカメラを設置し、主に夜間帯の安全確認に用いているが、監視カメラとして運用している実態があるため、利用者の権利擁護の観点から再度運用について検討されたい。また、日中と夜間を通じて、併設の他サービス事業所の職員がモニターで安全確認を行うようにしているため、本来的な利用者支援のあり方と体制に関する局内協議が求められる。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内で開催している研修会には全職員が参加している。利用者の状態を把握して、家族との連携を保ちながら信頼関係を築いている。職員間でチームワークを強化して虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 花 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社内研修の開催や、外部研修への参加を積極的に行っている。生活自立支援事業や成年後見制度の必要な利用者がいれば、活用できる体制を構築している。又、利用者の人権を尊重したサービスを提供するよう努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書や契約に基づき、十分な説明を行い同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 事業所には意見箱を設置しており、相談や苦情の対応を重視している。受付窓口の責任者や第三者委員会等を文書で明示して家族に伝えている。 | 事業所では、年2回、家族会を開催している。職員は、家族の来訪時やカンファレンスの際に、利用者や家族に希望や意見等を出してもらっている。また、意見箱も設置している。出された意見等は、職員会議の際に検討し、運営面に反映するようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議や職員面接を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。提案等あれば運営に反映させている。 | 月1回、職員会議などの機会に、職員のケアに関する気づきや意見を聞くようにしている。また、年2回、管理者による職員面談の機会を設けるなどして、意見を聞くよう努めている。また、職員用の意見箱も設置している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課表などを参考にして、職員個々のレベルを把握し、正規職員の登用に活用している。自己点検シートにて、自己目標の設定、自己評価を全職員が行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の年間計画を作成し実施している。外部研修にも積極的に参加し、復命書を作成し報告行っている。また、研修結果を発表する機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修参加の際には、同一サービス事業者とのネットワーク作りに努めている。同法人県外事業所での研修も積極的に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 花 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の際には、本人様との面談を通じて関わりを持ち、気持ちを受け止め、内面の声に耳を傾けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人様は元より、家族様の意向・要望の把握に努め、生活歴等を鑑み、良好な関係性を築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談者・本人の実情や要望をもとに入居判定員会を開催している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一律の介護ではなく、個別に対応行い、常に自立支援を念頭に支援しています。本人が出来る事を共に模索しながら生活し、新たな発見ができるような関わりを持っています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事の際には家族に案内し、参加の呼びかけを行っている。外泊や外出の支援を行い、家族と利用者様、家族と職員の良い関係性の構築に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の生活歴やこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、顔なじみの関係を特に大切に支援行っている。 | 事業所では、利用者の行きつけの理髪店の利用を支援している。年賀状を出す支援もしており、利用者の馴染みの関係を大切に捉えている。また、家族の協力を得て、趣味の活動等を継続することができるよう支援している。友人や知人が来訪しやすい雰囲気づくりにも努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の生活ペースをもとにし、過ごしやすく、楽しんで暮らして頂けるような環境作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 花 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所へ移った方を訪問し、継続した関わりを持っている。入院となり退居された方も同様にお見舞いに伺うなど関係性を継続して持っている。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者一人ひとりの状態や生活歴、希望、意向などを把握し、本人の視点に立った取り組みを行っている。 | 職員は、利用者や家族から、一人ひとりの生活歴や思い、暮らし方などに関する希望を聞いている。意思の表出が困難な方には、行動や表情の変化等から意向をくみ取るよう努め、利用者一人ひとりのその人らしい暮らしの実現に向けた支援に繋げている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居される際には、アセスメントを行い。生活歴、馴染みの関係等把握し、サービスに反映できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の現状を総合的に把握し、職員間で情報を共有し本人のストレングスに着目した支援ができるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月、担当者会議、ワーカー会を開催し、現状の把握に努め、介護計画に落とし込みを行っている。会議録、ワーカー会の記録は回覧行い、会議に参加できなかった職員も周知できるよう徹底している。 | 利用者や家族、多職種の参加で話し合うなどして、その人らしい暮らしを続けることができるよう、一人ひとりに合った介護計画の作成に努めている。また、本人の心身状況の変化に応じて、介護計画を見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別ファイルを作成し、日常の細かな変化や状況を記録している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 常時利用者の状態を把握し、その時々ニーズに応じた支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 花 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣に散歩や買い物、行事の参加に出かけ、地域資源を活用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居の際には、馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう本人、家族の意向を尊重している。また、些細な体調の変化でも医療機関に相談・報告するよう努めている。 | 事業所では、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得て、眼科や耳鼻科、歯科等の専門医の受診を支援している。直接、家族が医師から説明を受けることができるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設事業所の看護師に相談している。また、24時間相談可能な医療機関がある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には、本人のストレスや負担を軽減するため、家族と相談しながら本人に対する情報提供を行っている。また、ソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い治療の経過、退院の時期の話し合いを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の契約の際には、終末期支援の話し合いを行うが、入居後も本人、家族の希望の確認を行っている。また、家族や医師の立ち会いのもと、今後の方向性について話し合っている。 | 事業所では、利用契約時に、本人と家族へ看取りに関する指針についての説明を行い、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医や関係者と話し合っている。また、本人や家族の意向に添うことができるよう、チームとして体制を整備し、方針を共有している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に事業所内研修や、勉強会を開催している。また、緊急連絡網を整備しており、不測の事態に対応できるよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力のもと、防災訓練を定期的に行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し地域住民や老人会の方の協力を得ている。事業所内でも研修を行っている。 | 年2回、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。緊急連絡網を活用し、地域住民や老人会等の参加も得て実施している。また、備蓄品を整備したり、炊き出し訓練を行ったりして災害時に備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 花 | | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 自己評価 | 外部評価 | |
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は人格の尊厳に配慮した丁寧な言葉使いを心掛けている。 | 利用者一人ひとりの人格や尊厳を尊重し、自尊心に配慮した声掛けや誘導に努めている。年1回、プライバシーや倫理に関する研修会を開催している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃の会話や表情、態度を読み取り、声かけや支援に反映させています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりの生活リズムに配慮し、起床や入浴、食事等は本人のペースでできるよう柔軟な対応を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、馴染みの理髪店を利用できるよう外出支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メニュー作りから利用者に関わり、残存機能を活かしながら職員と共に、調理や片付けをしている。月2回のお食事会、お茶会を開催している。 | 職員は利用者一人ひとりと話し合い、好みの献立や旬の食材を取り入れて食事を作っている。利用者一人ひとりが食を通じて力を発揮することができるよう、調理や片付けなどの役割を担ってもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養面に関しては、併設事業所の栄養士からアドバイスを受けメニューを作っている。食事・水分摂取量をチェックし、1日を通して必要な食事や水分が摂れるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの実施を習慣にしている。必要に応じて本人や家族に説明し、週1回の歯科往診、歯科クリーニングを実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 花 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日々の排泄チェックを行い、排泄周期を把握し、声かけや誘導を行っている。日中はトイレでの排泄の声かけをし支援している。 | 職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで気持ちよく排泄することができるよう、自立に向けた支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 十分な水分摂取ができるようにケアし、腹部マッサージや適度な運動を行い、自然に排便できるよう配慮している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の時間帯や順番など、利用者一人ひとりに応じた支援をしている。拒否のみられる利用者には、声かけをする職員を交代するなどの工夫をしている。 | 入浴は、利用者の希望する曜日や時間帯に支援している。同性介護を原則とするなど、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている。また、入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングに配慮したり、気分転換を図ったりして、一人ひとりが入浴を楽しむことができるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の睡眠パターンを把握し、散歩や家事等の日中の活動を促し、本人に合わせてリズム作りをしている。夜間不眠傾向のある方は、医師や家族と連携し対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者が服用する薬の目的を理解し、正しく服薬できるよう支援している。定期受診時には、本人の状態や日常の記録を提供している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日頃の生活から利用者一人ひとりの楽しみや役割を見出し、得意な分野で能力を発揮できる環境作りを行っている。読書が好きな方は移動図書館を活用している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の体調を考慮し、バラ園やコスモス祭り、ピアガーデン等に出かけている。また、家族の協力のもと、県外へ遠足に出かける取り組みも行っている。 | 日頃から、事業所では散歩や買い物等を支援している。年間計画と月間計画を作成し、家族や地域の老人会、ボランティア等の協力も得て外出を支援している。歩行の困難な方には、車いすを利用するなどして、利用者全員が外出を楽しむことができるよう配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 花 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物時には、できるだけ自分で払えるよう支援、サポートしている。事業所で金銭管理を行っている方には、個別の出納簿に記帳して、定期的に明細を家族に確認してもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族と連携を図りながら、手紙のやりとりや電話での会話の支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天候に応じて照明を調節するなど生活する上でストレスとならないよう配慮している。同様に、不快な音にも配慮している。利用者一人ひとりの5感を意識し、居心地のよい環境を整えるよう工夫している。 | 共用空間は、明るく清潔感があり、日当たりも良い。大きなソファを設置しており、利用者一人ひとりがゆったりと過ごすことができる空間となるよう整備している。バルコニーには草花を植えるなどの配慮も見受けられる。廊下には、季節感のある掲示物や利用者の作品を飾っており、居心地の良い空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関前の共有空間には、造り付けのベンチやゆっくり座って寛げるソファを設置し、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で過ごせる空間がある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には、馴染みの家具を持ってきていただき、住み心地の良い、安心できる部屋作りを行っている。また、個性のある居室作りに共に取り組み、一緒に作品をつくり飾り付けている。 | 居室には、利用者の馴染みの家具等を持ち込んでもらっている。利用者によっては写真を飾る方もおり、自分らしく落ち着いて過ごすことのできる空間となっている。本人や家族と相談し、安全面にも配慮した居室の空間づくりを支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 能力に応じてできることはしてもらいながら、必要に応じてサポートしながら、残存機能の維持に努めている。居室の入り口には手作りの表札を設置し、トイレ等も分かりやすいように表示している。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|-------------------|-----|--|---|------|------|
| | | | 月 | 月 | 月 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員業務心得、理念、施設の目標を毎日の朝の申し送り時に唱和し、職員に周知徹底している。利用者、家族には入居の契約、説明の際に契約書等にて十分な説明を行っている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣地域の小学校、老人会やボランティアとの関わりを積極的に行っている。苑の行事への参加は元より、地元の老人会とは折り紙クラブや囲碁ボールの慰問を通じて触れ合える機会を作っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実践や研修で培った認知症の支援の方法や、知識を、広報活動を通じて発信している。また、地域の方々の高齢者やその家族に困ったことがないかを問いかけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者や家族、民生委員、市職員、老人会に参加して頂き、事業実施状況や行事報告等を行っている。参加者からの意見や提案を真摯に受け取り、サービスの向上に繋げている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護相談員の報告会に同席してもらったり、事業所の行事、運営推進会議への参加を呼びかけている。月次報告の際には、現状報告を行い、ボランティアについても相談・報告を行っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の抱える身体・精神的な病気を理解できるよう努めている。現在、身体拘束の対象となる方はいない。法人内で開催している研修会に全職員が参加している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内で開催している研修会には全職員が参加している。利用者の状態を把握して、家族との連携を保ちながら信頼関係を築いている。職員間でチームワークを強化して虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 月 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|--|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社内研修の開催や、外部研修への参加を積極的に行っている。生活自立支援事業や成年後見制度の必要な利用者がいれば、活用できる体制を構築している。又、利用者の人権を尊重したサービスを提供するよう努めている。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書や契約に基づき、十分な説明を行い同意を得ている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 事業所には意見箱を設置しており、相談や苦情の対応を重視している。受付窓口の責任者や第三者委員会等を文書で明示して家族に伝えている。 | | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議や職員面接を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。提案等あれば運営に反映させている。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課表などを参考にして、職員個々のレベルを把握し、正規職員の登用に活用している。自己点検シートにて、自己目標の設定、自己評価を全職員が行っている。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の年間計画を作成し実施している。外部研修にも積極的に参加し、復命書を作成し報告行っている。また、研修結果を発表する機会を設けている。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修参加の際には、同一サービス事業者とのネットワーク作りに努めている。同法人県外事業所での研修も積極的に行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 月 | 自己評価 | 自己評価 |
|-----------------------------|-----|--|---|---|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 実践状況 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の際には、本人様との面談を通じて関わりを持ち、気持ちを受け止め、内面の声に耳を傾けるよう努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人様は元より、家族様の意向・要望の把握に努め、生活歴等を鑑み、良好な関係性を築けるよう努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談者・本人の実情や要望をもとに入居判定員会を開催している。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一律の介護ではなく、個別に対応行い、常に自立支援を念頭に支援しています。本人が出来る事を共に模索しながら生活し、新たな発見ができるような関わりを持っています。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事の際には家族に案内し、参加の呼びかけを行っている。外泊や外出の支援を行い、家族と利用者様、家族と職員の良い関係性の構築に努めている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の生活歴やこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、顔なじみの関係を特に大切に支援行っている。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の生活ペースをもとにし、過ぎしやすく、楽しんで暮らして頂けるような環境作りに努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 月 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|---|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所へ移った方を訪問し、継続した関わりを持っている。入院となり退居された方も同様にお見舞いに伺うなど関係性を継続して持っている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者一人ひとりの状態や生活歴、希望、意向などを把握し、本人の視点に立った取り組みを行っている。 | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居される際には、アセスメントを行い。生活歴、馴染みの関係等把握し、サービスに反映できるようにしている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の現状を総合的に把握し、職員間で情報を共有し本人のストレングスに着目した支援ができるよう努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月、担当者会議、ワーカー会を開催し、現状の把握に努め、介護計画に落とし込みを行っている。会議録、ワーカー会の記録は回覧行い、会議に参加できなかった職員も周知できるよう徹底している。 | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別ファイルを作成し、日常の細かな変化や状況を記録している。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 常時利用者の状態を把握し、その時々ニーズに応じた支援を行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|-----------|-----------|
| | | | 月 実践状況 | 月 実践状況 | 月 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣に散歩や買い物、行事の参加にかけ、地域資源を活用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居の際には、馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう本人、家族の意向を尊重している。また、些細な体調の変化でも医療機関に相談・報告するよう努めている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設事業所の看護師に相談している。また、24時間相談可能な医療機関がある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には、本人のストレスや負担を軽減するため、家族と相談しながら本人に対する情報提供を行っている。また、ソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い治療の経過、退院の時期の話し合いを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の契約の際には、終末期支援の話し合いを行うが、入居後も本人、家族の希望の確認を行っている。また、家族や医師の立ち会いのもと、今後の方向性について話し合っている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に事業所内研修や、勉強会を開催している。また、緊急連絡網を整備しており、不測の事態に対応できるよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力のもと、防災訓練を定期的に行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し地域住民や老人会の方の協力を得ている。事業所内でも研修を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|--|---|-----------|-----------|
| | | | 月 実践状況 | 月 実践状況 | 月 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は人格の尊厳に配慮した丁寧な言葉使いを心掛けている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃の会話や表情、態度を読み取り、声かけや支援に反映させています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりの生活リズムに配慮し、起床や入浴、食事等は本人のペースでできるよう柔軟な対応を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、馴染みの理髪店を利用できるよう外出支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メニュー作りから利用者に関わり、残存機能を活かしながら職員と共に、調理や片付けをしている。月2回のお食事会、お茶会を開催している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養面に関しては、併設事業所の栄養士からアドバイスを受けメニューを作っている。食事・水分摂取量をチェックし、1日を通して必要な食事や水分が摂れるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの実施を習慣にしている。必要に応じて本人や家族に説明し、週1回の歯科往診、歯科クリーニングを実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 月 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日々の排泄チェックを行い、排泄周期を把握し、声かけや誘導を行っている。日中はトイレでの排泄の声かけをし支援している。 | | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 十分な水分摂取ができるようにケアし、腹部マッサージや適度な運動を行い、自然に排便できるよう配慮している。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の時間帯や順番など、利用者一人ひとりに応じた支援をしている。拒否のみられる利用者には、声かけをする職員を交代するなどの工夫をしている。 | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の睡眠パターンを把握し、散歩や家事等の日中の活動を促し、本人に合わせてリズム作りをしている。夜間不眠傾向のある方は、医師や家族と連携し対応を行っている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者が服用する薬の目的を理解し、正しく服薬できるよう支援している。定期受診時には、本人の状態や日常の記録を提供している。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日頃の生活から利用者一人ひとりの楽しみや役割を見出し、得意な分野で能力を発揮できる環境作りを行っている。読書が好きな方は移動図書館を活用している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の体調を考慮し、バラ園やコスモス祭り、ビアガーデン等に出かけている。また、家族の協力のもと、県外へ遠足に出かける取り組みも行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 月 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|---|---|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物時には、できるだけ自分で払えるよう支援、サポートしている。事業所で金銭管理を行っている方には、個別の出納簿に記帳して、定期的に明細を家族に確認してもらっている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族と連携を図りながら、手紙のやりとりや電話での会話の支援を行っている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天候に応じて照明を調節するなど生活する上でストレスとならないよう配慮している。同様に、不快な音にも配慮している。利用者一人ひとりの5感を意識し、居心地のよい環境を整えるよう工夫している。 | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関前の共有空間には、造り付けのベンチやゆっくり座って寛げるソファを設置し、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で過ごせる空間がある。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には、馴染みの家具を持ってきていただき、住み心地の良い、安心できる部屋作りを行っている。また、個性のある居室作りに共に取り組み、一緒に作品をつくり飾り付けている。 | | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 能力に応じてできることはしてもらいながら、必要に応じてサポートしながら、残存機能の維持に努めている。居室の入り口には手作りの表札を設置し、トイレ等も分かりやすいように表示している。 | | | |